


日本財団補助金による

1996年度財団法人日中医学協会助成報告書

— 学術交流に対する助成 —

年 月 日

財団法人 日中医学協会  
理事長 中島章殿

報告者氏名 平野 寛   
所属機関名 杏林大学医学部  
職 名 教授 年齢 62 才  
所 在 地 〒181 三鷹市新川6-20-2  
電話 0422-47-5511 内線 3416


◎添付書類：講演集・シンポジウム写真等学会に関する資料

第4回日中合同組織細胞化学セミナー

学会・学術交流の名称 (The Fourth China-Japan Joint Histochemistry and Cytochemistry Seminar)  
テ マ 組織細胞化学に於ける最近の進歩と展望  
主 催 団 体 日本及び中国組織細胞化学会  
代 表 者 平野 寛 (日本側代表世話人：日本組織細胞化学会理事)  
期 間 ・ 開 催 地 1996年9月11日～14日, 中国重慶市第三軍医大学

~~招へい~~ 派遣目的 組織細胞化学は、組織や細胞、或いは細胞下レベルの機能的な構造をin situで検討する。組織細胞化学に於ける最近の進歩・発展には目覚ましいものがある。医学・生物学の各分野にわたる研究法として、また汎用される一般的な技術として広く受け入れられている。本合同セミナーは、組織細胞化学に関わる日中の学術交流を積極的に図る目的で1989年発足し、原則として隔年に中国各地で開催、とりわけ中国の組織細胞化学の啓蒙・普及に大きく貢献してきた。1996年9月重慶で開催された合同セミナーは、会を重ねて第4回となる。前回までは、日本側は学会会員有志が任意参加する形式をとってきたが、今回からは日本組織細胞化学会に於ても公式事業の一環として運営することとなった。本事業は、かかる合同セミナーに主要な課題を踏まえた専門家を派遣して、一般講演参加者と共に人物交流をより一層促進し、さらなる学術的な水準向上を図ることを目的とする。

I. 招へい・派遣研究者 人数 5 人

1) 氏 名 (漢字) 平野 寛 英文名 HIRANO, Hiroshi  男・女  
所属機関、職名 杏林大学医学部教授 (解剖学) 生年月日 1934年5月12日  
所在地 東京都三鷹市新川6-20-2  
電話 0422-47-5511 内線 3416  
研究課題 生体膜に関する組織細胞化学的研究

II. 滞 在 期 間 自 1996年9月8日 至 1996年9月19日 (11 日間)

III. 助成金の使途内訳

助成金額 500,000 円  
交通費 270,000 円 (含 参加費) 宿泊費 0 円 食 費 0 円  
雑 費 7,295 円 他 222,705 円  
(運営費補助金)

・ 招聘・派遣研究者記入欄が不足の場合は別紙に追加添付して下さい。

#### IV. 滞在日程

1996年9月9日(月) 出発(成田または関西新空港)、中国到着(上海).  
 9月10日(火) 上海より重慶に移動.  
 9月11日(水) 重慶: 参加登録 役員会.  
 9月12日(木)  
 ~14日(土) 重慶: 会議(下記「会議次第」参照)及び視察(第三軍医大学).  
 9月16日(月) 重慶より武漢に移動.  
 9月17日(火)  
 ~18日(水) 武漢: 会議(下記「会議次第」参照)及び視察(湖北医科大学).  
 9月19日(木) 現地解散 各自適宜帰国.

#### 会議次第(添付資料参照)

##### 1) 重慶: 於第三軍医大学

1996年9月11日(水) 午後 参加登録(Registration)  
 15:30~17:00 役員会(Organizing Committee).  
 18:00~20:00 歓迎会(Welcome Party: Reception)  
 9月12日(木) 8:30~9:00 開会式  
 9:00~9:30 記念写真(参加者全員)撮影.  
 9:30~9:50 休憩.  
 9:50~12:20 特別講演(Plenary Lectures).  
 (5席) 日本側: 中根一穂(長崎大)  
 平野 寛(杏林大)  
 川生 明(山梨医大)  
 中国側: CHENG Lingzhong  
 成 令忠(上海医大)  
 GUO Wanhua  
 郭 婉華(中山医大)  
 12:20~13:30 昼食  
 13:30~17:00 一般講演(Devison Symposium). 2会場.  
 17:00~18:20 視察(第三軍医大学研究室)  
 18:20~21:00 晩餐会  
 (日本側: 参加者全員、  
 中国側: 役員及び第三軍医大首脳部)

9月13日(金) 9:30~12:20 一般講演(Devison Symposium). 2会場.  
 12:20~13:30 昼食  
 13:30~15:30 一般講演(Devison Symposium). 2会場.  
 15:30~18:00 示説(Poster Session). 1会場.  
 18:30~20:30 晩餐会(Farewell Party).  
 9月14日(土) 早朝 研究室視察.  
 日中 日中参加者交歓(Excursion: 大足).  
 2) 武漢: 於湖北医科大学.  
 9月17日(火) 14:00~17:00 湖北医科大学視察.  
 18:00~20:30 歓迎晩餐会.  
 9月18日(水) 8:30~9:00 湖北医科大学(首脳部) 表敬訪問.  
 9:00~9:30 開会式  
 9:30~12:00 講演会.  
 (3席) 日本側: 平野 寛(杏林大)  
 中根一穂(長崎大)  
 中国側: PIAO Yingjie  
 朴 英杰(第一軍医大)  
 12:00~13:30 昼食  
 13:30~17:00 湖北医科大学視察.

#### V. 学術交流報告

第4回日中合同組織細胞化学セミナー(The 4th Japan-China Joint Histochemistry and Cytochemistry Seminar)は、上記日程に従い、重慶市第三軍医大学(世話人: 蔡文琴教授、声原司教授、平野寛教授)及び武漢市湖北医科大学(世話人: 周新華教授、平野寛教授)に於て開催された。

1) 主たる会議は重慶で催され、日本側より総勢約30名、中国側より約250名が参加した。特別講演(5席)を含めて日本側は約20題、中国側は約80題の発表があり、活発な情報交換が行われた。内容も酵素組織細胞化学、免疫組織細胞化学、複合糖質組織細胞化学、in situ hybridization、画像処理法、共焦点レーザー顕微鏡法など多岐にわたり、多彩であった。講演及び討議は全て英語で行われた。(但し、質疑応答の一部が途中より中国語に随時通訳乃至解説されることもあった。)

日本側の個々の発表に対して中国側から多大な興味を示され、とりわけ技術面、或いは技法について熱心な質問が寄せられた。一方、中国側の発表内容も、多少の不揃いはあるとはいえ、従前に比し格段の向上がみられた。一部には、抗体など使用する試薬が海外から自由に入手し難い事情を反映した内容の演題もあったが少数に止まった。口頭発表や示のうちかなりの演題では、用いたスライドや展示の表現にパソコン処理を最大限に活用した色彩豊かなプレゼンテーションが目立った。しかし、技術面での進歩の割には、学問的な新知見に乏しかったと判断せざるを得なかった。今回、小規模とはいえ、初めて商業展示がなされ、中国側参加者の多大なる関心を集めた。

第三軍医大学のうち、主として組胚教研室、解剖教研室、病理教研室を中心に視察した。蔡教授主宰の組胚教研室は、神経系を取扱う組織化学的な研究室としてそれなりに整備されていた。また肉眼解剖学標本室もかなり充実していた。但し、研究室によってはひどく貧弱であった。大学構内に自由に立入ることは、学会会場や特定の研究室を除いてやはり制限を受けた。また構内でのスナップ写真撮影も、軍医大学の故か事実上当局の監視下にあり、制約を蒙った。

多少の齟齬はあったとはいえ、現地の主催者側は最大限の努力を傾けていた。会は全体として円滑に運営されていた。参加者が互いに顔を合わせて討議を重ね、友好を暖めたことの持つ意義は大きい。これは日本側参加者も等しく感じたことであった。

2) 武漢 湖北医科大学では、postcongress形式で啓蒙的な講演会を催し、日本側より7名、中国側では約60名がそれぞれ参加した。試みに一部を日本語で講演し、主催者が中国語に通訳したところ好評であった。英語のみでは難解な向きもあった。中国側からの講演は中国語を中心に行われた。質疑応答は活発であったが、手技に関する内容が多かった。

研究室の整備状況は重慶の場合に比し遅れていた。現在の中国では、北京など一部を除いて軍医大学がより恵まれているのは否めないと感じた。

重慶に於けると同様、歓迎会をはじめ学術的な催しを含めて、現地の受入側は極めて友好的で能う限りの配慮を示した。武漢では湖北医科大学のみならず同済医科大学も加わって実行委員会を構成、運営にあたった。

3) 学術交流の功績により、重慶 第三軍医大学で中根一穂(長崎大)に、また武漢 湖北医科大学では平野 寛(杏林大)にそれぞれ名誉教授の称号が授与された。

4) 第5回日中合同組織細胞化学セミナー(The 5th Japan-China Joint Histochemistry and Cytochemistry Seminar)は、1999年夏上海で開催予定となった。尚、世話人として中国側より成 令忠(上海医大)、日本側より平野 寛(杏林大)がそれぞれ選任された。